

以下は、1982年に『ロンドン暮らしのハンドブック』を創刊以来、婦人会ハンドブック活動の中心メンバーだった森嶋瑤子による読者の皆様へのご挨拶です。このメッセージの想を引き継ぎ、婦人会有志により活動を続けてきましたが、紙版の発行は2022年に終了いたしました。今回日本クラブ様のご厚意により、ウェブサイトへ公開させていただきます。

公開に先駆け、2024年12月現在のデータに基づき内容を更新しましたが、今後の更新はございません。このPDF版ハンドブックはあくまでも2024年12月現在の情報を記録した歴史的な記録に過ぎず、その内容の一部は将来、既に古い情報となっている可能性があるため、その正確性を保証できません。

従って、実際に行動をされる場合には、必ず公式情報などによって現在の状況を確認され、それに基づいてご自身で判断をされて行動されてください。

特にNHS制度、GP登録方法、処方箋、健診、学校の入学制度や申請方法、学期の仕組み、VFSによるビザ申請、滞在資格証明の取得手順、銀行の利用方法、税制、レート情報、コロナ禍以降の現金非対応店舗などの商習慣、各種届出の期限、大使館の業務などは常時変更されており、英国日本人婦人会および日本クラブは一切責任を負いかねますので、ご自身で必ず慎重な現状確認をお願いいたします。

またハンドブックに記載されている医療機関、学校、電話会社、不動産業者、食料品店、スーパー、オンラインショップ、その他の特定の機関や店舗などは既に存在していない可能性もありますこと、ご了承ください。

加えて、法律アドバイス、医療アドバイス、保険アドバイス、金融アドバイス、税務アドバイスを提供するものではなく、各分野の専門家のアドバイスを受けられることを強く推奨致します。

その旨どうぞご了承いただき、多くの皆様にご参考いただけることを願っております。

～英国日本婦人会ハンドブックチーム一同～

はじめに

たとえ数年間でも生活の本拠をこの国に移して暮らす方に英国日本婦人会のメンバーの経験を役立てて頂ければ、という気持ちがこの小冊子を発刊する動機でした。1982年に手書き原稿のビロックスコピーで始った創刊号以来、5回の大改訂と増刷の際の数多くの小改訂により、目まぐるしく変わる情報やIT技術の目覚ましい進歩におくれないようにと努力を重ねて参りました。2001年の第4回大改訂でパソコン入力に切り替え、同時に表紙のデザインも一新しましたが、生活経験に基づくまめ細かい生活の知恵を盛り込んだ手引き書という点には変わりありません。

情報の量は増す一方ですが、他方では日本語の情報紙読むも種々ありますし、インターネットを使えば、情報は手軽に、かつ自由に得られるようになりました。同時に他では得られないような生活情報がこの小冊子で得られるというのなら、この上ない喜びです。今後もご利用者の皆様からのご批判やご提言を参考にして、訂正や追加を怠らず、より使い易く役立つハンドブックに育てて行きたいと願っています。連絡は下記の婦人会のメールアドレスにお願いします。

日本人在住者の多いロンドンの事情に多くのページを割いていますが、基本的には英国生活の手引き書でありますので、他の地域に在住の方々にも役立てて頂けると幸いです。

なおこのハンドブックに掲載されている商品名、商店名その他は、純粋に皆様の便宜のための情報で、決して広告でも婦人会の推せんでもないことを承知下さい。英国日本婦人会は正式登録された英国チャリティ法に基づくチャリティ団体で、ハンドブック出版は有志の会員によるボランティア活動の一つです。どうか無断でコピーをなさらないで下さい。



英国日本婦人会
The Japanese Women's Association
in Great Britain since 1956

英国日本婦人会
(Charity No. 294386)
jwahandbook@gmail.com

交 通

1. Greater London(ロンドン首都圏) www.tfl.gov.uk

Oyster Card(オイスターカード) www.tfl.gov.uk/oyster 参照

ロンドンの交通機関の運賃支払い機能を備えたプリペイドのカードで、Pay-as-you-go Travelcard、Bus Pass、Travelcard Season Ticket(定期券)の役割を果たしてくれる。乗り降りの際に、電車なら改札口、バスなら運転手の窓口にある読取り機にカードを触れるだけでよい。(バスは乗車時のみ、Tram はプラットフォームの読取り機に乗車する時だけ)

カードにある残額は、駅の切符売り場にある読取り機に触れるとスクリーンに出る。残額が十分あるように Top-up(金額補充)をするのを忘れないこと。

※毎年1月に料金改定があるが、改定日以前に旧料金で購入した定期券やトラベルカードは、新しい料金体系でもそのまま使用できる。

Oyster card の購入と Top-up(金額補充)の仕方

- London Underground(地下鉄) 駅
- London Travel Information Visitor Centre
- London Overground(地上線) 駅
- National Rail 駅と DLR 駅(一部のみ)
- インターネット上 www.tfl.gov.uk/oyster で検索し注文すると郵送される。
あるいは Helpline 0343-222-1234 (年中無休)に電話して、最寄り駅を指定して、カードを受け取ることもできる。
- Oyster Ticket Stops(認可されたニュースエージェント)
新規で Oyster card 購入の場合は£5 のデポジットがかかる。

(1) Pay as you go (PAYG)

乗車券として利用するので登録は不要。

乗車・下車する度に読取り機に触れると記録されて、利用した交通機関・ゾーン・時間帯に相当する乗車料金が下車する時にカードから引き落とされる。一日あたりの支払い上限額に達するまでは乗車することに相当額が引き落とされる。

Daily Cap(一日の支払上限額)は、利用した時間帯とゾーンによって定められており、その金額に達した後の利用に関しては運賃が加算されず、したがってオイスターカードから Cap 料金以外は引き落とされない。

PAYG オイスターカードを利用するには、まず駅の発券機や認可された Oyster Ticket Stop(ニュースエージェント)にてカードを購入して、利用度にあった金額(例えば£10)を Top-up するとすぐに使用できる。

Oyster Card を返却するとデポジット(£5)が返金される。

観光客・ロンドンへの訪問者などは氏名、連絡先の登録の必要は無いがプリペイドの額により、登録しておく紛失した時にキャンセルすることができる。

駅の発券機や窓口、Oyster Ticket Stop などで Top-up が簡単にできる。

Elizabeth Line の西側 Iver～Reading の各駅や東側の Shenfield はゾーン圏外のため、予めチケットを買うか、コンタクトレスペイメントを利用する。これらを利用しない場合、無賃乗車扱いで高額の前金徴収される場合がある。

【Auto-top-up】

残額が£10 以下になると自動的に指定した金額 (£20 又は£40) がトップアップされる仕組み。トップアップされた金額は、インターネット上 (www.tfl.gov.uk/oyster) に自分が予め登録しておいたカードで決済される。Top-up の通知がメールに入るので、乗車する時、指定された乗車駅の改札口の読み取り機に触れ、下車駅でまた読み取り機に触れると Auto-top-up が有効になる。

<https://oyster.tfl.gov.uk/oyster/link/sso/0002.do>

(2) Oyster Season Tickets

1ヶ月以上の定期券 Oyster Travelcard/Oyster Bus Pass を購入する際は、カードの登録 Register が必要。上記の方法で購入時に登録する。Registration Number (登録番号)、Password (登録暗証) を大事に控えておく。

紛失・盗難の時にキャンセル手続きが簡単。7日間の Oyster Travelcard/Bus Pass の登録は、必要は無いが登録しておくが無難。

登録者本人以外の方が Oyster 定期券を使用することは違法である。

※改札口に入る時と出る時に読み取り機にカードをきちんと触れて緑のランプが点灯するのを確認する。改札口がない場合は、プラットフォームにある読み取り機にカードを触れる。きちんと読みとられなかった場合には利用ゾーンの最高支払い額をチャージされることになる。また時々、車内で検札があり、検札官の判断で罰金 £100 を支払うことになる場合もある。(3週間以内に支払うと半額に免除される)

(3) 紛失した時の緊急連絡先

登録したカードに限ってインターネット www.tfl.gov.uk/oyster あるいは Helpline (0343) 222-1234 に電話してキャンセルすることが出来る。

オイスターカードが起動しない時も上記同様に連絡する。

(4) Negative Balance (残高不足)

Pay as you go オイスターカードの現金残額より乗車料金が超過した際、オイスターカード施行の罰則上は無賃乗車扱いになり、罰金が科せられることもあるので、残高不足にならないように注意する必要がある。しかし実際には、オイスターカードが Negative Balance (残高不足) になっても、トラベルカードなど普通の切符と同様の扱いで、精算窓口に行ってカードを Top-up するか不足額を支払い精算することで減免されることが多い。残高を気にしないで済むという点で、頻繁に地下鉄を利用する場合には、Auto top-up 登録 (前述参照) をしておくほうが無難。

Contactless payment コンタクトレス ペイメント))) コンタクトレスのサイン (£100 以下のショッピング等が暗証番号入力不要で支払可能なカード決済システム) 英国の銀行発行のデビットカードやクレジットカードに < Contactless payment > のサインの付いた IC チップの入っているカードをオイスター読み取り機にかざすだけで、該当銀行口座から直接運賃分が引落としされる。乗降車口で同じカードを使

用し、1日、1週間使い続けると、自動的に Daily cap(1日)、Weekly cap(7日間)を計算し、同期間のトラベルカード料金の上限額を超えた分はチャージされない。

2. Underground(通称 Tube) 地下鉄

イギリスでは地下鉄を Underground(Tube)と呼び、米国語で地下鉄を意味する Subway は地下道のことを指すので注意する。

携帯にアプリを入れると路線地図だけでなく、運行状況や駅と駅との所要時間も分かる。路線地図は、各地下鉄の駅でも無料でもらえる。

現在12路線あって、それぞれ色分けで書かれている。駅のホームなどにも同じ色分けのサインが出ている。バスよりもわかりやすいし、早く目的地に着く。

改札は自動改札。切符の場合は、日本同様に出てきた切符を取るとゲートが開く。

地下鉄は駅構内・プラットフォームも含めて全線禁煙。

安全上の問題や従業員の不足などの理由に、ストライキが頻繁に行われたり、計器の故障等による遅れや運転中止がしばしばあったりする。

地下鉄で被害にあった時は、駅員に連絡するかまたは British Transport Police(交通警察) (0800)405-040 に通報する。

(1) 運転時間

通常、朝 4:30 頃から夜 12:30 頃まで(路線によって違う)。金・土に終夜運行される Night Tube ナイトチューブのある路線もある。12月25日(クリスマス休日)は全線運転休止となる。メンテナンスや改修工事などで土日に運行休止になる場合も多いので携帯アプリ、駅の掲示板、ウェブサイトなどで事前に運行状況のチェックが必要。

Night Tube (ナイトチューブ)

2016年11月よりサービス開始。指定5路線を金曜日、土曜日の夜間のみ、24時間地下鉄を運営する。Zone1 区間を約6～10分間隔、Zone2 以降の区間を10～20分間隔にて24時間運営している。料金はオフピーク時と同じ料金となる。

1day travelcard は購入日の翌日午前 4:29 まで利用可能。

終点が複数に枝分かれしている路線では、行かない方向、停車しない駅もあるので、行き先を確認する。地下鉄を降りて帰宅するまでの治安も考えると、男女ともに深夜の一人歩きは大変リスクを伴うので、ナイトチューブ及びナイトバスを利用する時には安全面には十分に気を付けたい。

Central セントラルライン	Ealing Broadway ～ Loughton/ Hainault
Jubilee ジュビリーライン	Stanmore ～ Stratford
Northern ノーザンライン	Morden ～ Edgware / High Barnet
Piccadilly ピカデリーライン	Heathrow Terminal 5 ～ Cockfosters
Victoria Line ヴィクトリアライン	Brixton ～ Walthamstow central

□ 交通状況の確認 www.tfl.gov.uk (020)7222-1234(24 時間)

料金・ルート・所要時間・運行状況などがわかる。

(2) 乗車券の購入

駅や Oyster Ticket Stop などにて購入可能。発券機を利用する場合、Change Given(釣銭が出る)と Exact Money Only(釣銭が出ない)の2種類がある。共に、画像が出るタッチスクリーン式で、日本語表示の可能な機種も登場、カード決済も

出来る。Oyster Card を Top up する場合、タッチスクリーンの発券機とクレジットカード専用の Express 発券機が利用可能。

(3) 運賃(2024 年 4 月より) <https://tfl.gov.uk/fares/>

運賃は、ゾーンと時間帯、支払い方法により多岐にわたる。詳細は、Fares and Tickets のリーフレット(各駅で取得可能) またはウェブを参照のこと。ゾーンは Zone1(Central)を中心に、ドーナツ状に Zone1~Zone9 まで分かれている。

a) 現金による Single Ticket(片道券)購入

現金での購入は割高。乗車の規制時間は無い。

同じ Zone 内、2-4 など 3 区間まで、1-6 全ての区間まで一律で£6.70

11才~15才の運賃は大人の半額、11才未満は無料、16才以上は大人と同額

b) Oyster Card または Contactless Card 利用

割高な Peak と割安な Off Peak の 2 種類がある

Peak	月~金 6:30~9:30、16:00~19:00
Off Peak	祝日を含む他のすべての時間帯

現金と違い、2区間でも1-2と2-3では金額が違うなど、ゾーンにより細かく分かれる。詳細は上記のサイトを参照。ここではよく利用される部分のみ紹介。

18才以上は大人料金。17才以下の子供に関しては Oyster Photocard が利用可能。

Zone	1	1~2	1~3	1~4	1~5	1~6
Peak	£2.80	£3.40	£3.70	£4.40	£5.10	£5.60
Off Peak	£2.70	£2.80	£3.00	£3.20	£3.50	£3.60

※子ども料金

11才未満	無料	大人が付添うと5~10才は Oyster Photocard 必要無し
11~15才	£0.95(Peak) £0.85(Off Peak)	Oyster Photocard の提示が必要。提示ない場合は大人と同額。
16~17才	半額	Oyster Photocard の提示が必要。提示ない場合は大人と同額。

なお、Oyster Card 利用の場合には、1日あたりの上限額(Daily Cap)が設定されている。11~15才は大人の半額、16~17才は大人と同額

Zone	1~2	1~3	1~4	1~5	1~6
Peak/Off Peak	£8.50	£10.00	£12.30	£14.60	£15.60

c) Travelcard(1日券)

ゾーン内の National Rail、地下鉄、バス、Tram、DLR を利用できる。

1 day Travelcard(1日券): 1日何度も利用可能で、Night tube, Night bus (Nのついた番号のバスで地下鉄終了後翌朝まで運行)にも使える。立ち寄り先が何か所もある場合や National Rail から地下鉄やバスなどに3回以上乗り継ぐ場合は Travelcard がお得。Travelcard を提示すると、定期船 City Cruise、フェリー利用の場合、3分の1の割引がある。

Day Anytime: チケット印字日付終日と翌午前4時30分以前の初乗りまで

Off-Peak: 月～金 9:30 以降の終日利用、土日祝の全日と印字日付翌午前4時30分以前の初乗りまで

ここでは主なものを紹介する。11～15才の子ども料金は大人の半額

Zone	1～4	1～6
Anytime	£15.90	—
Off Peak	—	£15.90

他に旅行者のために便利な 7 day Travelcard (7日券) もある。

1 day travelcard で乗車する大人の付き添い1人に対して子ども(～11歳) 4人までは無料。

d) Travelcard Season Ticket (定期券)

1週間、1ヶ月、1年など。1ヶ月以上なら何ヶ月間でも購入可能。

購入する際は写真付きの Photocard が必要。一部の National Rail でも利用可能。紛失した場合、電話又はインターネットで取り消しが可能。

(4) エスカレーターとリフト

駅のエスカレーターは、左側は急いで登り降りする人のために空けておき、右側に立つこと。リフト(エレベーター)のある駅も多いが、ある程度人が入るまで待たされる。リフトには閉扉ボタンが無い。全域、禁煙。

(5) 地下鉄ホームの表示板

同じホームから行き先の違う電車が出る駅も多いので、行先表示板を確かめること。全ての電車には車両の頭部(前部)に行き先が掲示されている。一部の電車の側面にはライン名が掲示されている。行先表示板の仕方も色々で、矢印で示すもの、到着順位が出るもの、First Train(先発車)と出ているもの等々。最近では車内の情報通達も改良されて来ているが、プラットフォームの駅名表示には次駅の駅名の表示がないので、下車駅は路線図を見るなど、前もって確認すること。

3. Bus バス／Tram 路面電車(郊外)

名物の赤い二階バス(Double Decker)は町を見下ろせて楽しい。これがロンドンの路線バスの主力。その他にミニバスが短距離のルートを走っている。

バス・路面電車の路線地図(London Bus/Tram Route Map)は、地下鉄の主要駅の窓口や最寄りの図書館にある。詳細は <http://www.tfl.gov.uk/tickets> 参照。

(1) 運賃(2021年3月) ゾーン内一律料金

※バスは現金支払いによる乗車はできない。トラムは、Tram 駅の発券機でチケットを購入することが必要。Oyster Card での乗車が便利。

a) Oyster Card £1.75 カード利用の1日上限額(Daily cap) £5.25

※子ども料金

11才未満は無料で Oyster Photocard 提示の必要はない

11～15才も無料だが、Oyster Photocard の提示が必要

16～17才 £0.85 カード利用の1日上限額 £2.55

正規学生割引(16～25 Railcard) 30%引き

詳細は www.railcard.co.uk 参照のこと

b) Bus Pass (定期券)

地下鉄同様、写真付きの Photocard が必要。初めて購入するときは写真 (スピード写真可) を持参すること。

c) Hopper Fare ホッパーフェア

ロンドンバス、トラムを乗り継いで利用する際に、オイスターカードもしくはコンタクトレスペイメントカードを利用した場合、最初にカードをタッチして、60分以内の乗り換え後のバス/トラムの運賃が無料になるサービス。(バス・トラム以外の公共交通機関の乗換、及びオイスターカードが残高不足になっているときには適応外。)

(2) Bus Stop (バス停)

必ず停まる Stop (白地に赤マークで Bus Stop と書いてある) と、合図をしないと停まらない Request Stop (赤字に白くマークが抜いてある) の2種類。

Request Stop では手を斜め前にあげないとバスは止まらない。降りるときは合図用のボタンを押す。

バス停にはバスの番号、行き先、道順を書いた表示板がある。心配ならば運転手に頼むとよい。バス停では列 (queue) 作っていないと乗りそびれる。自分がいる最寄りのバス停やバスの到着時間を知ることができる携帯アプリが便利。

(3) 利用する場合の注意

- 車内はすべて禁煙。
- 上の階では立つことは許されない。
- 入り口近くの席は高齢者、妊婦、子ども連れ、荷物の多い人、体の不自由な人などの優先席。
- Green Line Bus: 郊外へ行くバスで、バス停の印も緑色で出ている。このバスでは Travelcard (定期券) は使えない。
- 乗車券自動販売機を備えている停留所では、乗車前にチケットを購入しないと乗車拒否される。郊外の料金は種々。乗換切符はない。
- 無賃乗車の検札があるから下車するまで切符は捨てないこと。罰金£100
- 工事などで臨時に停車所が閉鎖されている場合、アナウンスはその1つ前の停車所でなされるため、アナウンスを留意して聞くこと。
- ベビーカーで乗車の場合、降車口付近 (車体の中央付近) のマイクから運転手に話しかけるとドアを開けてくれるため、楽に乗車ができる。乗車後にドライバー付近の機械で料金を支払ったり、降車してから支払いに行くことも可能。

地下鉄・バスでの落とし物

TFL のホームページの Lost Property enquiry form に紛失物の日時や内容詳細を記入。3 か月間は保管してもらえがその後は廃棄処分とされ、チャリティーショップなどに寄付される。オイスターカードや銀行・クレジットカード類は保安上、即時に破棄される。オイスターカード紛失の場合は TFL のホームページから返金手続きもしくはカード再発行手続きをする。銀行カード紛失時は銀行に即、紛失連絡をしカードを再発行してもらう。携帯の落とし物は携帯番号が聞かれる。地下鉄 Baker Street 駅北側にある、Lost Property Office (住所: 200 Baker Street, NW1) に本人以外の人を取りに行くときには委任状が必要。引取までの手続きに

かかる手数料は利用者が支払う。

4. Docklands Light Railway (DLR) ・ Overground ・ Elizabeth Line

2012 年に開催されたロンドンオリンピックに伴い、従来の交通手段であった Underground (地下鉄)、バス、National Rail (鉄道) に加え、シティー (金融街) から Canary Wharf や London City Airport などを経由してロンドン東南部の移動に便利な DLR や、ロンドン市内の南北の移動に便利な Zone2~4 のあたりを環状に走る Overground が完成した。

2022 年 5 月より Heathrow 空港及びロンドン郊外西部の Reading からロンドン東部の Abbey Wood、東側の郊外 Essex の Shenfield を結ぶ鉄道 (Elizabeth Line) が開通し、これまで TfL Rail として運行されていた部分と連結して全線開通した。ロンドン東側の地域からヒースロー空港までの時間が大幅に短縮されている。詳細に関しては www.tfl.gov.uk 参照。

5. National Rail 鉄道 <https://www.nationalrail.co.uk/> (08457)484-950

National Rail は、1997 年までに British Rail が分割民営化された 20 数社の民営会社の総称である。各線の名称は、運営会社名であり、主なものは、First Great Western, Southern, Virgin, First Capital Connect, Southeastern など。主要都市をつなぐ遠距離の基幹サービスの列車を Inter City、近距離の通勤電車を Commuter という。

ロンドンを中心とする通勤電車区間は Network South East と呼ばれ、ロンドン地下鉄網とも密接な関係にある。大都市間を結ぶ特急 Inter City は行き先により発着するターミナル駅が違うので、行き先とともにどの駅から出るかを必ず確かめること。大きなターミナル駅は Inter City、Commuter 共に発着するが、通勤電車専用の駅もある。

(1) 主なターミナル駅と行先

King's Cross	Scotland 東部地方, Cambridge, Yorkshire, Edinburgh 方面
Euston	Scotland 西部地方, Birmingham, Liverpool, Glasgow 方面
St. Pancras International	Luton 空港, Sheffield 方面, Gatwick 空港方面
	Eurostar パリ, ブラッセル, アムステルダム行
Liverpool Street	Cambridge, Colchester, Norwich 方面
	Stansted 空港 (Stansted Express) 方面
Charing Cross	Greenwich, Canterbury, Dover 方面
Victoria	Brighton, Gatwick 空港 (Gatwick Express), Dover 方面
Waterloo	Brighton, Dover, Wimbledon, Portsmouth 方面
Paddington	Oxford, Reading, Bristol, Bath, South Wales 方面
	Heathrow 空港 (Heathrow Express Heathrow Connect)
Marylebone	High Wycombe, Stratford-upon-Avon, Birmingham 方面
Elizabeth Line	Reading, Heathrow, Shenfield, Abbey Wood 方面

□ 一般に駅で始発列車に乗るときなどは、表示板で行き先、停車駅、プラットフォーム・ナンバー等を調べて早めに乗る準備をしておく。発車アナウンスも発車ベルもない。なお、時間通りに発車しないことも多く、また乗務員不足で急にキャンセルされたり、出発プラットフォームが変更になったりすることがある。

□ 列車の回数は週日と比べると、土・日や祭日にはかなり数が少なくなるので、携帯アプリなどの時刻表を用いて旅程を立てた方が良い。

□ 列車内の座席の背の部分にチケットが挟まれている席は予約席。一般客は座ることができない。

(2) 落し物 各駅に問い合わせる。(08457)484-950

(3) 運賃

1st Class と Standard の2種類。また、チケットには、乗車時間の制限がない。

Anytime 乗車券と、制限がある Off Peak 乗車券(割引あり)の2種類がある。

Off Peak 乗車券は、平日 9:30~16:00、19:00 以降及び週末は終日乗車可能。

1週間~1年の定期券 Season Ticket もある。

<割引制度>

□ 16~25 Railcard 16歳~25歳。運賃が34%割引。

申込みは鉄道の駅で学生なら在学証明書、その他の場合は年齢を証明するもの(パスポートなど)を提示し、写真を申込用紙に添えて出す。

□ 16歳未満は半額、5歳までは無料。16未満の子どもが Oyster Card を利用する場合は、インターネットで Oyster Photo Card を申し込むことが必要。

□ Senior Citizen Railcard 60歳以上の居住者

□ Family & Friends Railcard 大人4人と子供4人の乗車に割引。

□ Network Railcard South England 地方の路線にのみ適用

□ 運営会社により Special Offer、回数券等がある。

□ 1 day Travelcard、Travelcard Season Ticket は、ロンドンの地下鉄、バス、DLR、Tram、London・Overground にも通用し、便利で経済的。自動改札機が設置された駅では使用可能

□ Advance Ticket(前売り券)は、割安。割安の切符には、乗車時間の他にも規定があるので留意。駅の窓口・観光案内センターまたは、電話・インターネットで購入可能。

6. 長距離バス Coach www.nationalexpress.com

イングランドの各都市及びエジンバラやグラスゴーへも毎日運行している。鉄道運賃に比べて大分安いので利用も多い。殆どのバスは Victoria Coach Station 始発。他各空港の Bus Central Station(08705)808-080 からも運行している。大手バス会社の National Express には多くの路線サービスがある。

Victoria Coach Station(ビクトリア駅の向かい)

164 Buckingham Palace Road, SW1W 9T 020-7730-3466

最近は行き先によってはかなり格安なバスもある。

Mega Bus

<http://uk.megabus.com/default.aspx>

7. 国際列車

ドーバー海峡に海底トンネルが開通し、ロンドンからヨーロッパ大陸へ列車で直行できるようになり便利になった。ヨーロッパ大陸内は、高速列車ネットワークがある。

(1) Eurostar(ユーロスター) www.eurostar.com 予約(08432)186-186

発着駅は St.Pancras International (Eurostar 専用プラットフォーム)。

パリまで約2時間15分、ブリュセルまでは約2時間、アムステルダムまでは約6時間。その他に Lille(リール)行き、パリのディズニーランド行きもある。

(2) Eurotunnel www.eurotunnel.com (08443)353-535

自動車を利用してヨーロッパ大陸に行くときには、フェリーの他、列車に自動車を乗せてトンネルを通るシャトル・サービスがある。Eurotunnel のターミナルから発車するので、車で M20 を東へ行き、Folkstone のターミナルで乗る。フランスの Calais 近郊の出口まで約35分。

8. テムズ川のボートサービス River Thames Boat Services

毎日船の運航サービスが行われている。テムズ河畔の栈橋から Greenwich、Tower of London 行きが出ていて、通勤にも使われている。

栈橋 Pier は、Festival, Millbank, Bankside, Embankment, Tower, Waterloo, Westminster 等にあり、切符は栈橋で買う。多様な観光船も出ている。テムズ河兩岸の二つのテート美術館を結ぶフェリー(有料)がある。

詳細は www.tfl.gov.uk

9. ロンドン市内公認タクシーTaxi (通称 Black Cab) www.tfl.gov.uk

正規のロンドン・タクシー箱型車だけが流しができる。Taxi と書いた正面の部分に黄色のランプが点灯していたら空車。手をあげて停める。

乗車前に行き先を告げ、承諾を得てから乗車。ドアは自動開閉式ではない。

流しが多いが、ホテル・博物館・観光名所・駅前にタクシー乗り場 Taxi Rank がある。白プレートのライセンス番号が車内と車体後部に表示されていることを確認する。(夜間は特に)

(1) 料金

メーター制で乗車人数、荷物数に関わりなく基本料金は£3.80 で時間帯・平日・週末・休日により三段階の料金制。クリスマス、年末年始には追加料金が加算される。ヒースロー空港からロンドン市内乗り入れの際には£5.20 が加算される。

(2) 電話やオンラインで呼ぶ場合 予約センター(0871)871-8710

携帯電話からは(0870)070-0700

オンラインブッキングは上記 TFL の HP より Black Taxi and Mini cab を参照。

予約料金£2.00～の迎車料金が加算される。

予約の際、タクシー会社名と booking number(予約番号)を控えておく。

□ タクシー内での忘れ物は(020)7918-2000

□ もし、利用者がタクシー内を嘔吐などによる汚物等で汚してしまった場合、ドライバーはクリーニング代として、£60.00 を利用者に請求できている。

10. Uber・公認ミニキャブ PCO Licensed Minicab

最近では利便性や割安な料金という観点から、Uber の携帯アプリを使用して車を呼ぶ人が増えている。ただし日本のように、Uber アプリを使ってタクシー会社が配車している訳ではなく、英国の Uber は隙間営業でドライバーを副業としているケースが多いので、たとえば女性一人では利用しないなどの自己防衛が必要。

その点、公認のミニ・キャブ会社 PCO Licensed Private Hire Operators が営業している車は安全面ではかなり安心感がある。

信頼できる友人隣人に信用ある会社を問い合わせる。公認のミニ・キャブにはフロントと後部のスクリーンにライセンスナンバー、有効期限の表示のあるディスク(丸型の薄緑色の地に四角のライセンスが貼付)が貼ってある。運転手は Photo ID を所持している。運転手の隣の席に座ったり、留守にする話をしたりしないこと。

料金は、メーター制でなく距離・時間帯・大型・小型・人数で各ミニ・キャブ会社により設定されているので、インターネットのウェブサイトや電話でまず料金を聞いて承諾したうえで車を予約する。料金、予約番号、迎車(人数により大型、小型)の車台番号／色、運転手の名を控える。

なお、街中や空港等で声を掛けてくる白タクに要注意。決して利用しないこと。
深夜の女性一人での利用も避けたほうが良い。

11. カーシェアリング Zipcar <https://www.zipcar.com/en-gb/car-hire-london>

最近のロンドン市内では、Zipcar などに代表されるカーシェアリングが増えている。車を所有していない場合に、ちょっとした遠出の外出や自分で大きな荷物を運ぶ引っ越しなどのためにレンタカー会社で車を借りるよりも割安で簡単に車を借りることができて大変便利。

携帯にアプリを登録して、自分の希望する車種、日時などをインプットし、現在地の最寄りの駐車場所に停まっている車を探すことができる。

12. TukTuk

従来タイなどの東南アジア圏で多く見られていた原動機付三輪自動車タクシー(トゥクトゥクと呼ばれている)の観光案内タクシーがロンドン市内でも多く見受けられるようになった。交通渋滞を避けたり、狭い道でも案内してくれたりするので便利な一面もあるが、事前に料金相場をしっかりと調べて、乗車前に運転手ときちんと料金交渉をすることが重要。さもないと、ぼったくりや強盗まがいの事件に巻き込まれる事案が増えている。

一口メモ

レンタサイクルでロンドン市内を走ろう！

ロンドン中心部内のエコな移動手段として貸し自転車（Santander Cycles）がある。<https://tfl.gov.uk/modes/cycling/santander-cycles>

貸し自転車は、2010年、ボリス・ジョンソン氏がロンドン市長をしていたときに貸し自転車制度が導入されたので、「ボリスバイク」と呼ばれている。

利用には事前予約は不要で 30 分～24 時間のレンタル料は£2。

30 分以内の利用なら無料。30 分以内に一度返却し、次に借りるまで最低 5 分の間隔が必要。もし頻繁に利用するなら£3 で支払情報を登録した専用のスティックキーを申し込むことも出来る。これがあると、毎回のカード払い、キー入力不要、スロットに差し込むだけで自転車を取り外しできる。

携帯にアプリをダウンロードし、事前にデビットカードもしくはクレジットカードを登録しておくか、貸し自転車置き場に直接行き、自転車に付いているスクリーンをタッチすれば即利用できる。返却はロンドン市内のいずれの貸し自転車置き場でも良い。サドルの高さは英国人平均身長にあわせているので、日本人には調整が必要なことが多い。

自転車は歩道を走れないことを忘れずに、車に十分気をつけて楽しもう。季節の良いときに公園を走るのも爽快だ。

2021年6月からは貸し電動スクーター(e-scooters)の実証実験が始まった。

<https://tfl.gov.uk/modes/driving/electric-scooter-rental-trial>

この貸し電動スクーターを利用するためには、携帯のアプリで運転免許などを登録する。またこの電動スクーターは車体登録番号を保持しているので、道路を走行できるが歩道通行は禁止。反対に、個人で保有している電動スクーターは車体登録番号がないので、道路を走るのは違法である。歩道のみ通行可だが危険が伴う。